



## 姉妹都市交流親善団 交流体験記

中学生団員12名を中心に構成された三好市姉妹都市交流親善団16名が、10月25日から31日までの7日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市などを訪問しました。

ザ・ダルズ市はロッキー山脈に源を発するコロンビア川下流域にあり、広大な溪谷の続く場所です。北アメリカで最も古くから居住が始まったところと言われています。

ザ・ダルズ市とはこれまでの交流を通してお互いの文化を体験し、認め合いながら友情を築いてきました。今回の派遣事業は、長きにわたって多くの友情を育んできた交流とともに喜びあい、さらなる友情が生まれる訪問となりました。



**ザ**・ダルズ市でのホームステイは戸惑ったこともあれば、楽しかったこともありました。ホストファミリーとの夕食では、初めは緊張して話ができなくて心配になりましたが、相手の言うことを理解して、自分の英語で伝えることができるようになりました。「今日は何をしたの」と聞かれて、「高校でシェイクスピアについて学んだよ」と、すぐに英語が出てきて話すことができた時は、少し感動しました。

他にも、ダルズ市の歴史について知ったり、かぼちゃでランタンを作ったりと、日本では経験することのないようなこともたくさんできました。また、周りの景色にも感動しました。低い山や丘が連なっていて、遠いところまで見えたので、綺麗な景色がとても心に残りました。

私は、英語で話すことは自信がもてなくて得意ではありませんでしたが、今回の経験を通して英語を話すことが好きになりました。素晴らしい体験が出来てよかったです。  
(西祖谷中3年 谷口日菜子)

**ア**メリカでの7日間は、あつたと同時に、とても勉強になりました。

アメリカの人々は誰もがフレンドリーな性格でした。また、「困っている人を助ける性格」にも感心しました。私がコンタクトレンズのことで困っているときに、空港の男の人が一緒に歩いてきてくれて目薬を選んでくれました。こんなにありがたいと思ったのは、初めてだったので、私もこれからは困っている人がいたら助けようと思いました。

ホストファミリーのコーリンさんとはいろいろな話をしました。宗教の話になったとき、「どの宗教も互いにいいと思う。宗教で人を区別してはならない」と言っていました。そのとおりだと私は思いました。看護師になった理由を尋ねると、「少しでもいいから長生きできるように助けたい」と言っていました。すぐくすてきな人だなと思いました。そして出会えて良かったと思いました。  
(三野中2年 井口明香里)

**ア**メリカでは、驚きの連続で、1週間はアツという間でした。また、今回学んだことは、これから先きつと力になる、と感じました。

私は、お母さんと兄弟2人の3人暮らしの家庭にお世話になり、コミュニケーションをとることの難しさと大切さを学びました。最初は英語から逃げていましたが、それはここまで来た意味がないと思います。頑張つて会話をしてみたい。分らないところは、ジェスチャーも使いますが、すると、自分の気持ちが伝わったのです。その時は本当にうれしかったです。

また、さまざまな文化にふれて、日本とアメリカの違いを実感しました。日本では見られない景色や習慣の違いなど驚くことばかりでした。その中で生活することによって、自分の価値観を広げることができたと思います。  
帰ってきて一番に思ったのは「もっと勉強してもう一回行きたい」ということです。もっと英語力を磨いて、リベンジしたいです。  
(山城中3年 川上ひなた)

**私**は最初、海外に行くことへの不安からあまり乗り気ではなかったのですが、親や兄から「行って来い」と言われ応募しました。出発して到着するまで、夢じゃないかと思うほどでしたが、姉妹都市ではみんな優しく、いっぱい話をしてくれて、たくさん遊んでくれました。また、ホームステイ中には、いろいろな場所を見学したり体験したりしました。全て英語だったのでうまく分からずパニックになってしまいました。1週間もいるとその人が何を伝えているのかが分かるようになってきて本当に良い体験ができたと思つています。これも親や兄弟のおかげです。

それと、研修の関係者の皆さまにも感謝の気持ちでいっぱいです。研修では友達がたくさんできたり、英語をたくさん理解したり、外国の人と仲良くなったりと、本当にプラスの事しかなく、楽しくてもう一度外国に行きたいと思うようになりました。この研修を通して、とてもいい経験ができました。  
(三野中3年 近藤千紗)

**私**にとつてホームステイは初めてのことでしたが、数えきれないほど発見がありました。アメリカの家はすごく大きくて広いことやゲストルームというお客さん用の部屋があることなど。本当に分からないことだらけで、とても不安であると同時に楽しく貴重な体験でした。ホストファミリーの方はとても優しく、分からないことは根気強く説明してくれて、分からないが故に何か失敗してしまつても許してくれました。

アメリカではたくさんの友達ができました。みんな、英語が十分に話せない私にとつても親切にしてくれて、農場で採ったカボチャを運ぶの手伝ってくれたり、分からない英語の意味を教えてくださいました。

この体験を通じて国境や言語を超える優しさを感じました。とても楽しかったけれど、それもアメリカの人々の優しさがあつてこそのものであると思います。研修で学んだいろいろな事を将来に活かしていきたいです。  
(池田中3年 頭師ひなた)

**出**発する前の気持ちはすごく不安で心配でしたが、研修を通じて友達とも会話が弾み、緊張することなく出発することができました。

姉妹都市では、高校生や大学生との交流ができました。ザ・ダルズ高校では、実際の授業が体験できたのですが、僕が参加した授業は、英語や理科のような授業でした。大学生との交流では、ゲームをしたりして楽しみました。他にも、小中学生と折り紙を通じた交流もしました。

最終日には、かぼちゃのくりぬきなどをして、みんなでパーティーの準備をしました。パーティーでは、ホストファミリーとの最後の日を、楽しく過ごしました。ホストファミリーのジュリーさんとトニーさんのことは一生忘れません。帰りのサンフランシスコでは、ゴールデンゲートブリッジなどさまざまな物を目に焼き付けてきました。行って良かったと改めて実感しました。僕は、英語でコミュニケーションをとることが、予想以上に楽しかったです。  
(池田中3年 坪根一生)